

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ		
所在地	熊本県宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和5年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設20年をむかえてスタッフもグループホームのあり方をそれぞれが理解してご利用様と毎日楽しく生活できるようにしている。今年はコロナウイルス感染の影響もあり外へ出かける支援が減ったためそれにかわる中での生活に力をいれた。また、感染しないように職員も心がけて、感染対策にも力をいれて取り組んだ。  
今年に入り 西棟でコロナ感染が出たが、ゾーニングや感染対策を行い、最小限の感染拡大を防ぐことが出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の1つに「自立支援」があり、野菜の下ごしらえ、食器ふき、洗濯物たたみ、雑巾がけなど、入居者それぞれの出来ること・やりたいことができるよう、理念をプランに反映し、ケアに取り組んでいる。敷地内に系列の保育園があり、日常的に散歩に出かける園児に声を掛けるなどの交流が行われ、入居者の笑顔を引き出している。食事は、職員がローテーションで調理しており、入居者も出来ることを一緒に行っている。メニューは残っている食材や入居者の希望を聞いて調理する職員が考え、見た目も美しく、家庭的な美味しい料理が提供されている。コロナ禍で外出の機会は減少しているが、感染状況を見ながら今年度も恒例の日帰り旅行に出かけ、気分転換を図り楽しんでいる。ホーム長を中心に、笑顔がたくさん溢れた、温かいグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	BS法を用いて事業所独自の理念を作りあげた。その理念を玄関に提示し、職員が認識し共有実践につなげている。その人らしい暮らしができるように取り組んでいる。	「寄り添うケア」「自立支援」等5項目の理念は、玄関に大きな文字で掲示されており、職員のみでなくホームを訪れた人にも目につきやすいものとなっている。ケアプランは理念を意識して組み込んでおり、職員で共有して理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事のごみ拾いに参加したり、小学校への雑巾贈呈、散歩時の挨拶で交流を図っている。	地域のごみ拾いへの参加や、小学校への雑巾贈呈は、コロナ禍の現在も継続している。以前は、ボランティアの方が「二胡」の演奏やフラダンスの披露などに来てくれていたが、現在は行われていない。系列保育園の園児たちが、ホーム前を散歩で出かける際に、入居者が笑顔で声を掛ける等の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でも地域の方に認知症について理解して頂く機会があり、支援内容や事例発表などを行い、報告することで展開し進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回実地していたが、コロナ禍においてはホームの活動状況等を知らせるため、資料作成し関係者に配布した。	今年度は8月のみ書面会議で、他の5回は隣接のグループホームまごころとの合同で委員が参加しての会議を開催している。新任の委員もおり、認知症について、グループホームについて、運営推進会議について説明し、理解を深めている。4月には会議と同一日に避難訓練を行い、委員の意見・感想を得るなど、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は2ヶ月に1回実施していたが、コロナ禍においてはホームの活動状況等を知らせるために、資料を作成して関係者に配布した。市町村とはメールで情報を頂いている。	現在、市の会議はリモートで行われ、通知はメールで届いている。ホーム運営上の質問などは、担当者に気軽に相談したり、提出物は持参して話をするなど、協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて全職員が理解し入居者が安心して安全に過ごせるように取り組んでいる。	ミーティングで拘束にあたる行為についてや、拘束・虐待等のニュースを取り上げて話し合い、拘束をしないケアについて理解を深めている。行動を制限するような言葉掛けが見られた際は、言葉の置き換えを指導したり、お互いに注意して、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでのミーティングで話し合い周知徹底している。日頃から入居者の尊厳を守り、共に支え合っていくことが虐待の防止の繋がると考えている。声掛けや、言葉使いについても職員間で話あっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方への支援として自立支援事業や成年後見制度の理解を図り、必要な場合は市町村に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は、ホームの内、外を見て頂き契約書類説明時に不安の内容に質問を受け納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。コロナ禍で家族の来訪が減ったため電話での近況状況や質問意見を聞くようにしている。外での面会を短時間で実施している。	家族がデッキ越し面会に来られた際や、電話で入居者の近況を報告し、意見・要望等を聞くようにしているが、ほとんど意見等は聞かれていない。毎月、棟ごとに写真をたくさん載せたホームの新聞を発行し、家族に送付して喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで積極的に意見を求めるとともに日頃から連絡ノートや口頭での報告、連絡、相談を密にするように努めている。	毎月1回、棟ごとに行われるミーティングには、社長・ホーム長も参加しており、制度改正等についての周知や、個々のケアやイベントについての話し合いなどを行い、多くの意見・提案等出されている。また、日常生活の中で生じた課題は、その都度その場にいる職員で話し合い、意見を反映してケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善も支給されるようになり日頃の勤務態度等を反映させながら、資格取得の手当等も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナ禍で法人外の研修には殆ど参加できていない。ホーム内でキャリアのある職員から勤務経験の浅い職員への助言等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はグループホームの連絡会の集まりも殆どなくネットワーク作りは難しかったように感じている。リモートなどを駆使して今後交流が図れるようにしていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に入居前のケアマネさんから情報を得たり、またご家族やご本人さんより入居にあたり不安な事や希望等をお聞きし、新しい環境の中で安心して生活できるように、寄り添い支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、ご家族がどのようなことで困惑されていたか、耳を傾けホームでのサービスに対する情報を明確にし家族にも協力して頂けるように伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設以外のサービスとして月2回の往診や月2回の訪問看護、訪問歯科も提供している。ご家族やご本人の要望によりディサービスの利用も出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が持つておられる知識や能力を把握し、場面場面でその能力を発揮して頂けるように、ともに協力し合える環境を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍において窓越し、デッキ越しの面会を通してソ家族に日頃の状態をお話し、本人とご家族の絆が深まる環境作りを整えている。家族との関係を十分の考慮し、ご家族職員間で相談、共有しながら共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍に伴い、馴染みの場所や人と会う機会は減っているも、繋がりが途切れないよう窓越し面会、電話や手紙等のやり取りなどを継続できるように取り組んでいる。	面会には、家族のみならず友人・知人が来ることもある。現在はコロナ禍で馴染みの場所に出かける事もほとんどなく、姉妹からの手紙に返事を書くよう促したり、電話での関係継続支援が主となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の相性を把握するとともに食器拭き、洗濯物たみ等 利用者同士が関わり合う環境を整え提供している、実際に入居者さんから他入居者の言動を気にされ報告される事もある。支え合える環境性も築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様を最後までお世話できるように心がけご家族の相談やご希望に添えるように努めている。退所後でもご家族が面会に来て下さる事もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や購入の希望が出るようになるべく早く対応できている。ご家族への相談等を行い明朗な支援を心かけている。	入居者の欲しい物の希望があった際は、購入したり家族に連絡をしたり、外に出たい時は散歩に出るなど、出来る限り希望に沿って対応している。意思表示が難しい人は、表情から推測したり、家族から聞き取りをしたりミーティングで話し合おうなどして、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネさんより情報を本にスタッフが日頃の生活を観察し、各自集めた情報を共有し支援やその人らしく、その人に合ったリズムや環境を提供できるよう、各自が意識し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握の努めている。定期的のアセスメントを行い、有する能力や課題や生活への思いについての現状把握努めている。本人のペースやこだわりを大切に持てる力を得意分野で発揮して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居後2週間ほど様子を観察して、全職員に(らしきシート)(アセスメント)を記入してもらい添えRそれぞれの視点の気づきを基にケアプランを作成している。毎月のミーティングの際に、利用者様個々の状態等確認し支援方法を考えている。また、各担当で毎月モニタリングを行い、半年毎に評価、考察を記入してもらい、これを参考に現状にそくしたケアプランを作成している。	入居時は2週間程度入居者の様子を見て、全員が「アセスメント表」と「らしきシート」を記入し、できることや生活習慣の気づきなどをケアプランに反映し、作成している。その後毎月担当がモニタリングを行い、半年ごとに全員で評価考察をして、ミーティングで検討し、プランを更新している。個性を生かし、持てる力を発揮できるようなプラン作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを活用し、情報の共有を行い、毎月のミーティングで話し脚、職員の気づきは記録し、実践や介護計画に反映させプランに基づいて毎日の記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため、年間の行事は現在安全を考慮して、ご家族にお参加は見合わせホーム内で食事会や室内レクリエーションの形式で入居者様とスタッフで交流と気分転換を図って実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響により、利用者を公共の施設や人が集まる施設等へはが外出を控えていました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居の際、本人、家族に希望にかかりつけ医を確認している。原則、ご家族様に受診をお願いしているが、緊急時や移動介助が困難な場合はホームで	かかりつけ医は、家族の希望により1名を除いて協力医療機関としており、月2回の定期往診を受けている。また、月2回、訪問看護による健康チェックも行われている。緊急時・夜間帯はかかりつけ医の指示を得て対応しており、適切な医療受診が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回訪問看護を利用し、日ごろの個々の様子観察を行ってもらっている。体調変化や処方量を相談して適切なアドバイスをもらい、早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、本人様とご家族様の意向を聞き医療機関との情報共有を行う。入居さんの機能低下が見られ入院が長引く場合は早期退院に向け医療との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについてはご家族様と方向性を話し合いながら、主治医とご家族との連携を図り、情報や方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	「ターミナルケアにおける指針」を作成しており、入居時に説明し、同意書を得ている。重度化した場合は家族に状態を説明し、改めて終末期についての意向を確認している。ホームでの看取りを希望される場合は、家族、かかりつけ医、希望により訪問看護と連携し、ミーティングで情報を共有しながら支援している。看取り後は振り返りを行い、みんなで思いを出し合って家族に報告している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変を含む緊急時に備え、スタッフは心肺蘇生やAEDの使用方法など定期的な研修を受けており、事故発生時はその場にいるスタッフにて連携を図れるように努めている。AEDの研修にもさんかした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。避難訓練、消火器の取り扱いの確認を行い、実際消火器を使った訓練を行った。常に防災意識を保つように努力している。	年2回、日中・夜間想定で防災訓練を行っており、うち1度は消防署の立ち合いのもとアドバイスを得ている。同一敷地内の他のグループホームも合同で、火元を変えながら実施している。今年度は、運営推進会議の委員に訓練を見学してもらい、意見をもらっている。食料・水等の備蓄も確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ人格や性格、認知症の症状の違いを理解して、個々に合った声掛けを心掛けている。特に入浴や排泄時には注意を払い、誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。	入浴時や排泄時には、自分でできる場合はドアを閉めて、声を掛けながら外で見守るなど、羞恥心に配慮した対応に努めている。トイレは、ドアやカーテンの内側にもう一つカーテンを取り付け、プライバシーへの配慮が伺えた。また、新人研修では「コミュニケーションの取り方」について研修し、入居者に敬意を持って接することを指導している。	「コミュニケーションの取り方」の研修は、新人以外にも定期的に行うなど、全職員が再認識する機会を持つとともに良いと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定出来るように落ち着いた雰囲気を作るように努めている。また自己決定出来ない利用者様に関してはご本人の気持ちを汲み取り家族と相談、希望を出来るだけ反映できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者9名のそれぞれの個性を見極めコミュニケーションを図り日々の生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で更衣が出来られる方はお気に入りの服を楽しまれ、支援が必要な方は本人にお似合いの服や色を考えて提供している。朝、整髪等も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に利用者の能力に応じて料理や食器洗い、拭き等をして頂いている。食事の形態も全介助、一部介助、自力摂取のため、各テーブルにスタッフが1名ずつ付き誤嚥防止に努めている。	調理は職員のローテーションで行っており、メニューは残っている食材や入居者の希望を聞いて調理する職員が考え、毎日食材の買い物に出かけている。入居者は食材切りや食器ふきなど、出来ることに応じて職員と一緒にやっている。お正月、ひな祭り、クリスマスなど、季節の行事に合わせた食事を提供し、誕生日はケーキとプレゼントでお祝いするなど、食事を楽しむ支援が多く行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を工夫している。一人ひとりの食事量や形状にて提供している。カフェオレ、ポカリスエット・お茶等ご本人の嗜好で定期的に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し声掛けや支援にて実施。口腔ケア用品を活用し(ハミンググッド・舌下ブラシ)衛生保持に努めている。訪問歯科と連携を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、パット内汚染が削減できる様、落ち着きがない時や定期的なパット確認、トイレ誘導を行い、おむつやパットの削減に努めている。	日中は、全介助の方を除き、トイレでの排泄の支援を行っている。夜間はトイレ誘導・パット交換・ポータブルトイレ使用など、一人ひとりに応じた支援をしている。入居者・職員の負担軽減や経済面等を考慮し、それぞれに適した排泄用品について適宜検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れ、乳製品を利用し食事で調整し努めている。ミキサー食の方も食べ物に合わせきざみ食にしてり量を多く摂取出来るように排便等を促すよう努めている。排便がそれでもない場合に下剤を使用するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の気分や体調をくみ取り、入浴の順番や時間帯の配慮を行っている。シャワー浴や足浴など個々の応じた支援を行っている。	入浴は基本的に週3日、午前中に実施している。ゆず湯やしょうぶ湯、時には入浴剤を入れて入浴を楽しめるよう工夫している。洗濯物を早く乾かしたい人は1番か2番に入ってもらったり、長湯が好きな人にはゆっくり入ってもらったり、一緒に歌を歌う人もおり、それぞれの希望に応じた入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の身体状況に応じて本人の意向確認の上、午前または午後ソファやベッドで休憩時間を設けている。馴染の方と一緒に過ごしてもらうまで安心感が持てるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を理解して、服薬時は間違いがないように日付と名前の確認を行っている。確実に飲まれるまで見守りしている。服薬後は症状の変化が内科を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握し家事作業の手伝いや役割を持つことで、力を発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響中、年間行事の日帰り旅行や家族会等の外出や社会との交流は現在実施していない。入居者の方々のストレス軽減や気分転換のきっかけをホーム内の散歩や日光浴等で出来る範囲での支援を実施している。	日頃は敷地内のお散歩や、時に買い物に出かけて気分転換している。毎年恒例の日帰り旅行は、コロナ禍の今年度も継続して実施している。今後は、桜・あじさいなどの季節の花見も積極的に行いたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時5万円預かり、その都度ご家族に補充して頂いている。少額を自己管理できる方については所持してもらっている。必要物品の購入を希望された時は職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用されている方には充電や利用方法のサポートを行い、電話やご家族様への連絡も要望等スタッフが仲介するようにして風通しの良いやり取りが出来るように心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は日々清潔保持に努めており、ホール内の温度調整や換気はもちろん季節や行事に合わせたディスプレイや彩りを入れ、目で見て楽しむことができる心地よい空間を心掛けている。	共用空間には入居者の写真や習字の作品、絵画や花などが飾られ、明るい雰囲気である。建物周りにはよく手入れされた花が美しく、広いウッドデッキでは日光浴をしたり、散歩に出かける保育園児に声を掛けたりしている。リビングでは畳のコーナーで寝転んだり、洗濯物を畳んだり、テレビを見たりと、自由で穏やかな暮らしが伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前やデッキ側にソファを設置し、気の合う利用者同士でテレビを視聴されたり、お話をされたり、スタッフと一緒に家事作業をして頂いている。利用者の意向や体調に応じて思い思いに過ごさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れたものや大切にされているものを配置しつつ、日々の掃除や定期的なリネン交換などで清潔保持、居心地の良い空間作りを努めている。	居室にはテレビ・衣装ケース・タンス・仏壇など、それぞれに馴染みの物・必要な物を配置している。安全と清潔に配慮し、それぞれに応じた居心地の良い部屋作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂では滑り止めマットやシャワーチェアを使用し安全面の配慮を行っている。又居室にはご本人の写真や名前が記載されているプレートを下げたり、たんすにも収納する場所が分かるようにシールをはったり視覚にも分かりやすく整理しやすい工夫をしている。		